

● 本会の動き ●

☆「第18回上席化学工学技士交流会(大阪)」 に参加して☆

さる7月19日大阪科学技術センターにて第18回上席化学工学技士交流会を開催致しました。今回も関東・関西・中国地区から13名の方が参加され、活発な意見交換ができ有意義な時間を過ごされました。

今回は、海外ライセンスビジネスに焦点を当てた話題として、宇部興産(株)森下から蔭酸ジメチルを介したエチレングリコールプラントライセンスの状況を発表しました。

本製造プロセスは、残念ながら日本でのエチレングリコール生産は見送られ、貴重な開発データが活かしきれなかった案件でしたが、中国での石炭化学振興の波に乗り、2010年中国1号商業設備建設が完成、運転が始まり、2019年現在、商業運転7件、年間生産量：135万tと中国内生産の1割迄広がりを見せています。

本交流会に参加している企業の方々も中国を含めた海外製造拠点進出を積極的に進めています。手配した機器の信頼性や現地運転体制、効率的なエンジニアリング手法をどう構築していくか等々、商業開始時の苦労は絶えず、なぜ順調に全ての拠点でスムーズな製造開始ができたのか、を中心に参加メンバーで議論をおこないました。ここでは詳細は割愛しますが、ライセンス購入した地場企業に取っても大型案件であり、優先度は高く、また地場をよく知った彼等がイニシアチブを持ってプロジェクトを推進することで、中国の実績あるメーカーの採用や優秀な人員手配がなされ、日本国内と同等以上の流れが作り得たのだと考えています(無

論、日本人が適宜施工品質を確認・助言することで、品質が保たれていることも一因)。

続いて、参加企業の方が今関心を持っていることとして、化学工学会主催の継続教育プログラム(本号特集「化学工学年鑑2019」1.2.3項「社会人技術者の生涯教育に対する活動」を参照)の内容や、今年から始まった「しごとの常識塾」(同特集1.2.5項「資格制度と継続教育の連携」を参照)等、社外講習をどの程度活用されているか、また活用されるべきか、が話題となりました。社外講習は、その道のスペシャリストによる講義がなされ、レベルの高い情報が得られますが、その恩恵は受講者個人に留まりがちであり、それを今後の業務にどう活かしていくか、モチベーションに繋げていくかも個人に委ねられているのが実状。一方、社内講習も画一的な形ではなく、受講者を選抜し、その後の人事にも反映するような「会社としての本気度を持った」人材育成が必要との熱い意見も飛び交い、若手育成をどう進めて行くべきかを考えている私にとって、非常に参考となりました。

参加された方々のご意見を拝聴して感じることは、皆様が人材育成について日々真剣に悩み・精進されている姿を見ると、やはり日本の化学技術者も捨てたモンじゃないと強く感じるとともに、これらの諸問題を単に個人で対処するのではなく、技士や学会としてより高度なサポートができるスキームに作り込んでいくことが、私達の使命のひとつではないかと再認識した次第です。

今回の話題は、「積極的に社内人材育成を進めている事例とその効果」に関する議論をテーマに交流会を開催する予定です。この交流会が、化学工学技士個人の更なる技術・見識の向上に繋がり、また化学工学会の認定する資格を魅力あるものにし、資格制度の発展の一助になればと思っています。今後も仲間を助け、本交流会を継続・発展して行きたいと願っておりますので、多数の方々のご参加をお待ちします。

(宇部興産(株) 森下啓之)